

石ころの生涯を読んで

奥田 ひかり

「学而事人」私はこの言葉に惹かれ桜美林
大学への入学を決意した。AO入試の面接で、
学園精神への共感を熱く語ったことを思い出
す。「学問のために学問するものでもなけれ
ば、自己の教養のために学問するものでもな
い。人に事えんために学問するのである。」
この文章に改めて心を打たれた。清水先生は
貪欲に学び、書物を沢山読まれたことを知っ
た。徳富蘇峰氏の『支那漫遊記』など、先生
の人生に書物は大きな影響を及ぼしたのだと
感じた。
「カマワシ・ボーイ」。そう叫んだ異人の
ウィリアム・メレル・ヴォーリズ先生（以下
ボリっきん）は清水先生の生涯において、も
っとも偉大な影響を与えた人物だそうだ。こ
の方に出会わなければイエス・キリストにも
辿り着かなかったと。

私は観光の道を志しているのだが、桜美林

大学で渡邊教授に出会わなければ他の道を辿
っていたかもしれないとしみじみ思う。進む
かとどまるか迷った際には、教授の教えであ
る「迷ったらGO」が常に脳裏をよぎる。優
柔不断な性格を変えてくれた素敵言葉だ。
「誰と出逢うか」で人生が変わる。人との巡
り合わせは人生に大きく影響を及ぼすのだ。
言うなれば一つの巡り合わせが人の人生を創
っているのだと、出逢いに感謝しなければな
らないと感じた。偉大なる空想家であり、平
和を好み、安息日を重んじ、しろうとであり
ながら事業に手を出す人であったボリっさん
の生き様が清水先生に大きく影響しているの
だと強く感じた。

中学時代、清水先生の親友は毎年変わった
滅多に首席を譲らなかつた山内君、剣道部の
中村君、父親が師範学校長の山路君、代議士
の息子である伊夫伎直一君。優秀な親友が多
かったため清水先生は劣等感を抱いたと言う

私も小学、中学、高校、大学と親友が変わっ

。

。

た。先生のように劣等感と似た寂しきを感じた。経験がある。心の中で親友と提起してしま
うと「私にとってもあの子にとってもお互い
が一番」という感情が湧いてきてしまうもの
で、他の友達といるところを見るととられて
しまったと思ってしまうのである。
しかし、毎年側で支えてくれる友、すなわ
ち「親身になれる友」がいたということには幸
せなことである。清水先生のお人柄が素晴ら
しかったのだと感じる。
小学校の卒業式当日にインフルエンザにか
かり欠席した経験がある。「行ってはダメ」
母の声に悔しさと怒り、やるせなさを覚えた
そんな時同級生の一人が仲間と先生に声をか
けてくれ、後日、校長室で私だけのために卒
業式を開いてくれた。私はその時に初めて
「素敵な友達がいて幸せだ」と感じたのであ
る。清水先生も、友の存在に劣等感を感じる
とともに幸福感も感じていたのではないだろ
うか。「われは一個の石ころだ」と説く清水

先生だが、素敵がたくさん詰まっている偉大なる石ころなのだ。私は感じた。妻、美穂の死のシーンには衝撃を受けた。「ずいぶん、僕はお前に苦勞をかけたね、すまなかった」

「自分が求めてした苦勞でしたもの、何の不服もありません。あの刺しゅうを作って校舎を建てたときは嬉しかった」

この二言に夫婦の全てが詰まっているような気がした。最期に何の不服もありません。そう言えることは素晴らしいことなのだろうか。私は深く考えてしまった。一種の強がりのようになものにも感じてしまったからだ。しかし、熟考した結果この言葉は夫への深い愛情を、そして信頼を表していたのだと推測した。私は生涯何の不服もなかったと言えるパートナー。そして過ごすことができるだろうか。清水先生が素晴らしい人間だったからこそ妻もついていこうと思われたのだと思う。

教えることが上手な人は慕われやすい。こ

、
。

れも清水先生が人を惹きつけた理由の一つであると感じた。教えることに対し、「一種の名人」と本人もおっしゃっていた。清水先生が学生時代、落第寸前の生徒を優等生にしたお話には感銘を受けた。どのような教え方をされたのか詳しく記してほしいほどであった。いかなる低能な頭の悪い生徒も、たちまちにして優等生にまで向上するのだという。頭のどちらかという弱い生徒たちを親しく教えたことが一生役に立っているのだそうだ。かつて別に教育学というものを学んだことも研究したこともないのに何故だろうか。きっと相当な努力をされたのだろう。

私はもうすぐ桜美林大学を卒業する。(正式には卒業見込みである。) 四年間学んだことを人のために使うことが出来るだろうか。この本を読み、そんな感情が芽生えた。四年間を振り返ってみると学んだことは観光や書道の知識だけではない。二本松市高槻に行っ

た際、伝統料理「ゆずまき」を作ってくれた

集落の方々に温かい気持ちをもった。小さい頃から送られてくる祖母からの手紙を振り返り「なんてあたたかいのだろう」と感動した。心の底から笑い合える友達もできた。私が充実した生活を送ることができたのは間違いない。周りの人たちのお陰だ。そのことを忘れず、常に奉仕の気持ちを持って生きていきたい。

、

。